

5 障害のある子どもや外国人の子どもなどの読書活動の推進

子どもと保護者への取り組みの充実

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
97	読書活動	保育や教育の場で子どもの状況に応じて、日常的に絵本の読み聞かせや子どもと本をつなぐ取り組みを行う。	継続				紙芝居や絵本、布絵本を活用し、ベッドサイド学習の生徒に対して読み聞かせを行っている。布絵本の手触りや声の調子、特に美しい色調の絵に引きつけられ、楽しんでいる。	刀根山支援学校
							・通園児に対して・・・保育室や待合室に子どもが自由に手に取ることができるように絵本棚を設置。ひとりの子どもの選んだ本をクラスで読み聞かせを繰り返すうち、クラス全体でも好きな本になり、そこから遊びに発展することも多い。保護者にクラス懇談会や月のおたより等で、そんな子どもの姿を紹介しながら、絵本やおはなしが子ども同士をつないでいるということを伝えている。今後も続けていきたい。 ・また、外来訓練利用児については毎週水曜日に保育の場を提供しているが、毎回絵本の読みきかせを行っている。子どもたちが絵本を楽しむ姿を保護者の方に知ってもらうと同時に、その時々々の絵本がなぜ子どもたちのこころをとらえるのか、くりかえし楽しめるのか、というようなこともピンポイントで伝え、保護者の方自身に、子育ても絵本も楽しんでもらえる場としての取り組みをしている。	しいの実学園
							設定保育の導入や、給食準備中、自由遊びの時などに絵本を読む機会をもっている。その中で、それぞれにお気に入りの絵本ができていく。絵本のお話が、クラスの遊びに発展することもあった。また、絵本に興味がないと思っている保護者に、子どもが興味を持ちそうな絵本を紹介することもある。引き続き、障害にかかわらず、絵本を中心に親子が楽しめるきっかけを作っていきたい。	あゆみ学園
							授業で紙芝居や絵本などを一緒に読み、話を楽しんだり、国語の勉強に役立てている。また、本の内容からものづくりや数の学習に発展させたりもしている。	豊中支援学校

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
98	「おやこでにほんご」	地域に暮らす外国人親子が安心して参加することができる親子参加型日本語教室を図書館で継続して行う。	継続		実施回数 参加人数 (調整中)	「おかまち・おやこでにほんご」年38回外国人大人96人子ども71人ボランティア大人220人子ども149人計536人。「しょうない・おやこでにほんご」年42回外国人大人166人子ども75人ボランティア大人220人子ども112人計573人	「おやこでにほんご」(岡町図書館と庄内図書館で毎週火曜日10時～12時に活動)は、5年を迎え、地域で孤立しがちな外国人親子が安心して参加できる居場所として定着している。毎回数組の外国人親子が参加し、子育ての情報交換や日本語にふれたり、絵本の読み聞かせを行っている。絵本の読み聞かせは、日本語だけではなく、外国人保護者が母語の絵本の読み聞かせを行うことで、子どもが母語や母文化に触れる機会になっている。母語の読み聞かせを通じて、母語継承の大切さを外国人親子に伝えるだけでなく、日本社会へも母語保持の重要性を発信していくことがこれからの課題である。この事業は、子どもの読書推進だけでなく、外国人親子の居場所、母語継承の問題など、地域課題の一つであるマイノリティ市民の抱える課題解決につながる図書館事業となっている。	おやこでにほんご とよなか国際交流協会 市立図書館
99	市立図書館における多文化サービスの充実	外国人市民が図書館を利用するきっかけとなる事業や、地域の多文化共生を推進するための事業を図書館、とよなか国際交流協会、市民団体(地球ママくらぶ等)が連携して行う。	継続		おはなし会の回数 参加人数	3回137人	毎年岡町図書館で実施していた「おかまち・おやこでにほんご」による「世界のことはおはなし会」については、19年度は演じ手の外国人ママが揃わず、実施できなかった。「子どもと本のまつり」では「おかまち・おやこでにほんご」によりタイ語と中国によるおはなし会を実施した。また東豊中図書館では地域でくらす外国人ママたちの協力により、ブラジル・タイ・中国の言葉でのおはなし会が実施された。「しょうない・おやこでにほんご」では3月に行われた協働事業「しょうないREK」主催の「多文化子どもフェスティバル」にて庄内図書館で多言語おはなし会を実施。いろいろな国の言葉の響きを地域の人々に親しんでもらえた。しょうないREKの取り組みは、地域に暮らす外国人ママたちの社会参加の場として定着してきている。また、外国人ママたちの持つ力を活かし、催しに多様性や活気があるので、これまで図書館へ来たことなかった人たちが図書館に足を運びきっかけになってきている。19年度初めて行った「外国人親子の絵本の読み聞かせ講座」では、参加した外国人市民に読書活動の状況やかねらのニーズを知るための聞き取りを行った。この聞き取りから現状と課題を把握し、今後、多文化サービス充実に向けた具体的な取り組みを検討する。付記:18年度の実績には記入していなかったが、岡町図書館での「子どもと本のまつり」では18年度にも多言語のおはなし会を実施した。この時は、韓国語と中国語のおはなし会で参加者は子ども20人、大人16人。	市立図書館 市民団体(地球ママくらぶなど) とよなか国際交流協会

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
100	「おはなし指導者派遣事業」	豊中おはなしの会の協力を得て、日ごろ図書館を利用しにくい子どもたちに出前のおはなし会を行う。 [58、83、135にも掲載しています。]	継続		おはなし会の回数 参加人数	8ヶ所で9回開催、参加人数は984人	19年度は、民間保育園1ヶ所、私立幼稚園2ヶ所、小学校2ヶ所、支援学校1ヶ所(2回開催)、障害児通園施設2ヶ所でおはなし会を行った。19年度はじめて、民間保育園でおはなし会を実施した。事業をきっかけとして、実施園への団体貸出や読書相談などの図書館サービスが始まった。また、豊中おはなしの会とともに、20年度からの事業のあり方について討議を重ねた。	市立図書館 豊中おはなしの会
101	子ども文庫での活動	子ども文庫が地域の中で本に出会える場であるということをPRし、障害のある子どもや外国人の子どもも絵本やおはなしを楽しめる場となるよう、図書館やとよなか国際交流協会などと連携して活動する。	継続				「子どもと本のまつり」の多言語おはなし会に「おかまち・おやこでにほんご」の外国人ママが読み手として参加。母語と日本語による読み聞かせを行った。今後も継続して参加し、文化の相互理解や母語継承に繋がるようすすめていきたい。	豊中子ども文庫連絡会 市立図書館 とよなか国際交流協会
102	絵本講座の開催	保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取り組みを行う。	新規				今後は通園施設と連携し、図書館見学などの機会に絵本の楽しさや大切さを伝える講座の実施が可能か、検討する必要がある。また、おはなし指導者派遣事業によるおはなし会も、保護者の方に絵本の楽しさを伝える機会となっている。	市立図書館
	絵本講座の開催	保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取り組みを行う。	新規	回数 人数	1回 15人	岡町図書館ととよなか国際交流協会により、「外国人親子のための絵本の読み聞かせ講座」とよなか国際交流センターで行い、外国人大人10人、外国人子ども5人の参加があった。岡町図書館にある外国語の絵本の貸し出しを行い、24冊の貸し出しがあった。また、講座終了後、参加した外国人市民に聞き取りを行い、読書活動の状況やかねらのニーズ調査を行った。この講座では、本にアクセスしづらい環境に置かれている外国人市民が絵本のおもしろさに出会うだけでなく、実際に本を借りることを体験したり、図書館司書と知り合うことで、図書館へ足を運びやすくなる環境整備につながった。	とよなか国際交流協会	
103	保護者への図書館利用の案内	障害のある子どもの保護者や障害のある保護者が子どもと一緒に図書館を利用しやすいように、利用の方法など図書館のサービスについて詳しく案内し、同時に保護者の声を聞く機会を定期的に持つ。	新規				あゆみ学園は野畑図書館、しいの実学園は高川図書館において図書館見学を実施した。その際に図書館の利用方法について図書館職員から説明を行った。今後も継続してこの事業を行い、図書館に来館されるきっかけを作る必要がある。また障害のある保護者を対象とする取り組みについては実施できておらず、今後の課題となっている。	市立図書館 通園施設

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
104	図書館見学会	通園施設や支援学校の子どもと保護者に対して図書館見学会を行う。	新規		実施回数 参加人数	1回 10人	保護者教室の時間を使って、高川図書館見学会を実施。保護者と引率の職員が参加。図書館の丁寧な案内や説明に、保護者の方も質問をしやすい雰囲気だったようで、子どもを車椅子やバギーで連れて行った場合の具体的な場面、状態などを尋ねられる方が多かった。見学後、図書館が身近に感じられるようになった、図書館に対するイメージが変わったと伝えられる保護者が多く、近くの方は休日の利用を始められた方もいる。機会があれば今後も見学会に取り組んでいきたい。	しいの実学園
	図書館見学会	通園施設や支援学校の子どもと保護者に対して図書館見学会を行う。	新規		実施回数 参加人数	親子25組、 保育士12名	19年度は、単独クラスの親子と担任で、野畑図書館を見学した。図書館に子どもを連れていくことに遠慮があったが、貸し切りということで、親子ともしリラックスして絵本を楽しむ時間が持てた。その場で貸出カードを作る親子もあり、図書館に対して好印象を持った親子が多かった。また、こんな機会を作ってほしいという声もあった。見学が、また図書館に行くきっかけになる見学のやり方も考えて継続したい。	あゆみ学園
105	図書館見学会	外国人の子どもや保護者、その支援に関わる協力者に対して図書館見学会を行う。	継続		実施回数 参加人数		「おかまち・おやこでにほんご」で12月に予定していたが、実施にいたらず、19年度の実施はなし。	市立図書館 とよなか国際交流協会 市民団体(地球ママくらぶなど)
106	動く図書館による施設サービスの充実	動く図書館が通園施設や支援学校、保育所を巡回して、子どもや教職員が直接選んだ本を貸出する。動く図書館の巡回について、教職員や保護者の意見に対応し、各施設の読書環境の整備を支援する。	継続		動く図書館で巡回している施設数 貸出冊数	支援学校2カ所、通園施設2カ所、6,640冊	約4週間に1回、各施設を巡回して貸出を実施。子どもが直接本を選ぶとともに、教職員の保育用資料や保護者向けの資料も貸出している。19年度は各施設の職員と、情報交換する時間を持てなかった。個別の要望については巡回時に聞き取りができていたが、改めて交流の場を定期的に持ち、必要な資料の情報や施設内での子どもと本のかかわりなどについて、情報交換する機会が必要である。	市立図書館
107	小児科病棟でのおはなし会の実施	市立豊中病院とおはなしボランティア(おはなしたまてばこ)、市立図書館が連携し、小児科病棟でのおはなし会を行う。	継続		おはなし会の回数	39回	毎週木曜日2～4人で実施。第1～3週は絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、第4週は手作り工作と絵本の読み聞かせなど。12月は小児病棟主催のクリスマスパーティに参加する。おはなし会に関わる約16名は違うおはなしグループに属しているが、毎回実施記録を全員にFAXで送信し、その折に連絡事項、意見なども加えることにより、できるだけ意思疎通をはかる。また代表が必要に応じて病院側と意見交換を行い、協力体制をとっている。2007年10月より保育士がおはなし会に関わるようになり、カードにシールをはったり、呼びかけをしてくださるようになって、おはなし会の参加者が増加した。同時に非感染室(感染しないように注意する必要のある子どものためのプレイルーム)でのおはなし会も行われるようになり、同じ日に2ヶ所で実施している。	おはなしたまてばこ 市立豊中病院 市立図書館
	つきそいの方がほっとしたと喜んでくださる。							

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
108	「図書館バリアフリー宣言」	だれもが使ってみようと思う、そして使いやすい図書館をめざして、図書館のバリアフリー宣言をし、様々な場面でPRする。 〔124にも掲載しています。〕	新規				17年度より豊中市子ども読書活動推進会議 実務担当者会議で検討した案について、音訳などに関わるボランティアの方や図書館職員の意見を広く募り、「図書館へようこそ」(図書館バリアフリー宣言)を作成した。気軽に図書館を利用してもらうよう周知するために、ポスターを作成し、図書館で掲示するとともに、ホームページでの掲載も行った。	市立図書館

子どもの本や読書に関する情報提供

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
109	絵本などの情報提供	図書館のホームページやケーブルテレビで本の紹介などを行う。 〔6、141にも掲載しています。〕	継続				ホームページでの本の紹介は実施している。ケーブルテレビでの本の紹介は未実施、今後検討していく。	市立図書館
110	図書館のPR	渡日外国人児童生徒の相談窓口、外国人登録窓口、とよなか国際交流協会などで、多言語の図書館利用案内を配布する	新規				改訂作業中	人権教育企画課 とよなか国際交流協会 市立図書館 市民課

読書環境の整備

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
111	市立図書館の外国語資料の充実	関係団体と協力し、外国人市民の意見やニーズを把握しながら、市立図書館の外国語資料を購入や寄贈によって充実するとともに、岡町図書館の「世界のこどもの本の部屋」をより利用しやすいものにする。 〔151にも掲載しています。〕	拡充		新規受入冊数 所蔵冊数	148冊、 8,456冊	購入冊数:117冊(中国語、韓国語、タガログ語等)。寄贈冊数:31冊(英語、フランス語、中国語、インドネシア語)。所蔵冊数:8,456冊。(所蔵冊数については、18年度は岡町図書館世界のこどもの本の部屋に所蔵している外国語児童書の冊数を挙げたが、19年度からは豊中市立図書館全館で所蔵している外国語児童書の冊数を挙げる。参考:18年度 豊中市立図書館全館で所蔵の外国語児童書は8,308冊)	市立図書館

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
112	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実する。 〔154をご参照ください。〕	継続				月1回の動く図書館を活用している。学校の規模が小さいため、学校図書館がなかなか充実できない。そのため、動く図書館は、本に触れる貴重な機会となっている。実際に多くの図書の中から自ら選書することの喜びや、見たい、読みたい本があるかと思いつつ探す時の期待感もあり、楽しく利用させてもらっている。	刀根山支援学校
	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸し出し、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実する。 〔154をご参照ください。〕	継続				動く図書館の団体貸し出し、リサイクル図書を利用することで一定の図書の充実を図っている。利用したい本はあらかじめ動く図書館に連絡を取り、次回の巡回日に持参していただいている。また、リサイクル図書の配本の情報をいただいたとき、職員間で希望の本についてあらかじめチェックしておき、現物があれば提供していただいている。今後もこのような便宜を図っていただくことで、図書の充実を図りたい。	しいの実学園
	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸し出し、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実する。 〔154をご参照ください。〕	継続				動く図書館で借りた本を持って帰ることでお母さんが読んであげるきっかけになったり、写真がたくさんある本から、興味を持ち、自分から手に取る姿も出てきている。園に来るといことで、外国人のお母さんも気楽に借りることができた。また、リサイクル絵本を利用することで、子どもたちが興味を持つ絵本をたくさんそろえることができる。保育室だけでなく、園バスの中の絵本も増やすことができた。	あゆみ学園
	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸し出し、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実する。 〔155をご参照ください。〕	継続				月に一度、動く図書館を利用している。小、中、高等部の児童・生徒が昼休みに本やCDを選んで借りている。学校で購入できる本は限られているので、新しい本やCDがある図書館を楽しみにしている。教員も利用して、教材として授業などに役立てている。	豊中支援学校
113	資料の充実	図書館が通園施設や支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書に反映する。 〔150にも掲載しています。〕	継続				図書館から資料などについての情報提供を受け、学校の資料充実に向けて活用している。今後も選書の参考とするため、特に中・高生向けを中心とした情報を希望する。	刀根山支援学校
	資料の充実	図書館が通園施設や支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書に反映する。 〔150にも掲載しています。〕	継続				選書に反映されるよう、園で活用したい図書名を市立図書館へ情報提供している。	しいの実学園
	資料の充実	図書館が通園施設や支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書に反映する。 〔150にも掲載しています。〕	継続		施設数	支援学校2カ所、通園施設2カ所	施設や学校で活用される資料の、要望やニーズについて巡回時に情報交換している。そして動く図書館車に積み込む資料に反映して、施設や学校の読書環境の整備につとめている。課題としては、施設の職員や保護者が入れ替わるため、継続的に交流の場を持ち、利用方法の説明などを実施する必要がある。	市立図書館

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
114	外国語資料の整備	英語以外の外国語資料について、蔵書検索ができるように研究を行う。また市立図書館ととよなか国際交流協会が資料の情報を共有し、分担収集をするなど、ともに蔵書の充実を進める。	新規				とよなか国際交流協会	とよなか国際交流協会
	外国語資料の整備	英語以外の外国語資料について、蔵書検索ができるように研究を行う。また市立図書館ととよなか国際交流協会が資料の情報を共有し、分担収集をするなど、ともに蔵書の充実を進める。 [152にも掲載しています。]	新規				20年度末の図書館コンピュータシステムのリプレースに向け、次期システム更新の課題として多言語対応を検討している。	市立図書館
115	団体貸出のPR	関係機関・団体に向けて団体貸出の制度をPRし、冊数や期間など各施設の状況に応じて団体貸出を行う。	継続				おはなし指導者派遣事業やおはなしボランティアの講座などの機会を通じて、団体貸出の制度を説明している。今後とも、各施設や団体の子どもの読書に関する状況を把握し、それに応じたサービスを行う必要がある。	市立図書館
116	排架やサインの見直し	利用者が図書館職員に相談しやすい雰囲気づくりに努め、市立図書館の資料を利用しやすいよう、サインや排架の見直しを行う。	継続				「図書館へようこそ」(図書館バリアフリー宣言)を作成、館内に掲示し、市民すべてが図書館を利用できることをアピールしている。今後の課題としてサインの見直しや車椅子、ベビーカーでも利用し易い環境整備などがあげられる。	市立図書館
117	多言語の利用案内やサインの作成	子ども向けの利用案内やサインなどを多言語で対応できるものにする。	新規				カウンターでの意思疎通を図るための指差しコミュニケーションカードと、館内掲示等に使用するための文例集を日本語も含めて8言語で作成、20年度に完成予定。	市立図書館 国際交流協会 市民団体(しょうないREK)
118	入院中の子どもの読書環境整備	市立豊中病院と市立図書館が連携し、患者用図書室などを充実し、入院中の子どもの読書環境を整備する。	継続		病院への団体貸出しの冊数	26冊	小児病棟へ絵本などの長期貸出を実施。また小児科の外来へも団体向け図書リサイクルの絵本を提供するなど、環境整備につとめた。	市立豊中病院 市立図書館

子ども読書活動におけるネットワークづくりと情報交流の推進

子ども読書活動ボランティアや市民活動団体への支援の充実

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
119	ボランティア活動への支援	録音図書、点字図書や拡大写本など、障害のある子どもに有効なメディアを研究し、製作に携わるボランティアを育成・支援する。	継続		音訳ボランティアフォローアップ講座などの回数参加人数	3回36人	図書館による講座の開催などで研修の場を提供し、ボランティア活動の支援としているが、児童書の録音図書、点字図書を作成するタイトル数は少ない。引き続き子どもに有効なメディアの研究や障害児通園施設、支援学校等と連携しながら子どものニーズを探ることが今後の課題となる。	市立図書館 ひまわり教育センター
120	おはなしボランティアへの支援	障害のある子どもや入院中の子ども、外国人の子どもに向けておはなし会を行うボランティアに対して市立図書館が図書資料や情報などを提供する。	継続				「おかまち・おやこでにほんご」の活動で利用する絵本や紙芝居など資料の提供を行っている。また市立豊中病院の小児病棟でおはなし会を実施している「おはなしたまてばこ」への団体貸出をおこなっている。	市立図書館

子どもに関わる大人への啓発と研修

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
121	市民向けの啓発事業の実施	市民に向けて、障害のある子どもに対して理解を求めるとの取り組みや啓発を行う。	新規				岡町図書館と千里図書館において「共に生きる市民のつどい」写真展を実施。障害や世代を越え、であいふれあい・共に輝くときをテーマにした写真を展示。	市立図書館 通園施設 支援学校
122	職員の研修	障害のある子どもや外国人の子どもを取り巻く状況など、多様な子どもの情報を共有できるよう教職員の研修を行う。	拡充		実施回数		あゆみ・しいの実の両園で、親子クラスについて、互いの保育の公開と勉強会を行い、それぞれのこどものおかれている状況、親子関係についてなどを学びあった。	通園施設
	職員の研修	障害のある子どもや外国人の子どもを取り巻く状況など、多様な子どもの情報を共有できるよう教職員の研修を行う。	拡充		職員研修の参加人数		おはなし指導者派遣事業の取り組みで毎年、障害児通園施設や支援学校でのおはなし会を実施している。19年度のおはなしグループとの反省会で、障害のある子どもについて理解を深めることが必要という意見が出された。そこで長年通園施設でのおはなし会に携わっているおはなしグループのメンバーから障害のある子どもたちについておはなしを聞く機会をもうけ、研修の場とすることになった。(20年度に実施予定)	市立図書館
123	情報交流と研修	図書館や各施設で行う研修の情報を共有し、研修の機会を広げる。 [76、163をご参照ください。]	拡充				図書館で実施する講演会などで、各施設の職員に研修となるような内容の事業については、チラシやポスターなどを送付している。また、市立図書館と豊中子ども文庫連絡会が主催の「子どもと本のつどい」で佐々木宏子さんをお招きして、講演会「幼児の心理発達と絵本」を行い、市内の民間・市立保育所(園)、幼稚園、子育て支援センター、障害児通園施設の保育士・幼稚園教諭への研修の機会とした。今後は図書館と各施設が相互に研修情報の交換ができるような仕組みづくりが課題となる。	市立図書館